

アカハラ *Turdus chrysolaus* Temminck

## 【選定理由】

亜種アカハラ *T. c. chrysolaus* は夏鳥として標高 1,000m 程度以上の疎林に生息する。繁殖期に豊田市（旧稲武町）、設楽町、豊根村の山地で生息していたが、2010 年以降は、県内から繁殖期の生息が途絶えている。その後同じ山系で長野県側の記録はあるが、最近はこうした記録も希となっている。11 月頃から 5 月頃にかけて県内に冬鳥として飛来する亜種オオアカハラ *T. c. orii* は、毎年安定した数が飛来して越冬していることから、越冬個体群として絶滅危惧種のリスト外と評価された。

## 【形態】

全長 23.5cm。頭部から上面にかけて、一様にオリーブ味のある褐色。下面は腹の中央部が白いほかは橙赤色。雄は頭部の黒味が強く、雌は喉に白色の縦斑がある。亜種オオアカハラは、雄の頭部の黒味がより強く、体がやや大きく嘴が太い。



長野県，2011 年 5 月 2 日，杉山時雄 撮影

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

亜種アカハラが、夏鳥として標高の高い山地へ飛来して繁殖し、亜種オオアカハラが、冬鳥として県内全域に飛来して越冬する。

## 【国内の分布】

亜種アカハラが、夏鳥として本州中部から北海道までの範囲で繁殖し、亜種オオアカハラが、本州や西南諸島に飛来して越冬する。

## 【世界の分布】

2 亜種があり、千島やサハリン、日本で繁殖して、日本、台湾、中国南部、フィリピンで越冬する。

## 【生息地の環境／生態的特性】

亜種アカハラが、標高 1,000m 程度以上の高原にある疎林で繁殖する。地上で昆虫やミミズなどを捕食するほか、樹上で木の実を食べることもある。高木の梢でキョロン、キョロン、ツイーッと囀り、地鳴きはツリーッなどと鳴く。春の渡りでは平野部の市街地でもその囀りを聞くこともあるが、越冬していた亜種オオアカハラも囀るので、姿を確認しなければ亜種の特定は困難である。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

繁殖期の生息地として、1980 年代までは茶臼山と面の木峠が知られていたが、繁殖期の生息数はごく少なく、2010 年以降は県内から繁殖期の生息記録が無くなっている。かつては標高のより低い場所でも生息していた可能性もあるが、牧畜産業の衰退や観光開発等により、餌生物を含む生態系の環境が悪化している。また、標高が高いため、地球温暖化の影響も否定できない。

## 【保全上の留意点】

県内の標高 1000m にある高原の牧歌的な環境は、この種や県内で繁殖絶滅の危機にある多くの野鳥にとって不可欠な環境である。県内でも希有な高原の牧場は、観光資源としても重要な環境であり、その観光資源を活かすためにも、牧畜産業を振興し、本来その環境に生息していた生物の生息環境を保全する努力が必要ではないかと思われる。

## 【特記事項】

春の渡りは 4 月下旬から 5 月、繁殖期は 5 月下旬から 7 月である。春の渡りの季節の夜明けには、平野部の公園や緑地などでも囀りが聞かれる可能性がある。

## 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸，2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥，pp.250-251. 文一総合出版，東京.

（高橋伸夫）